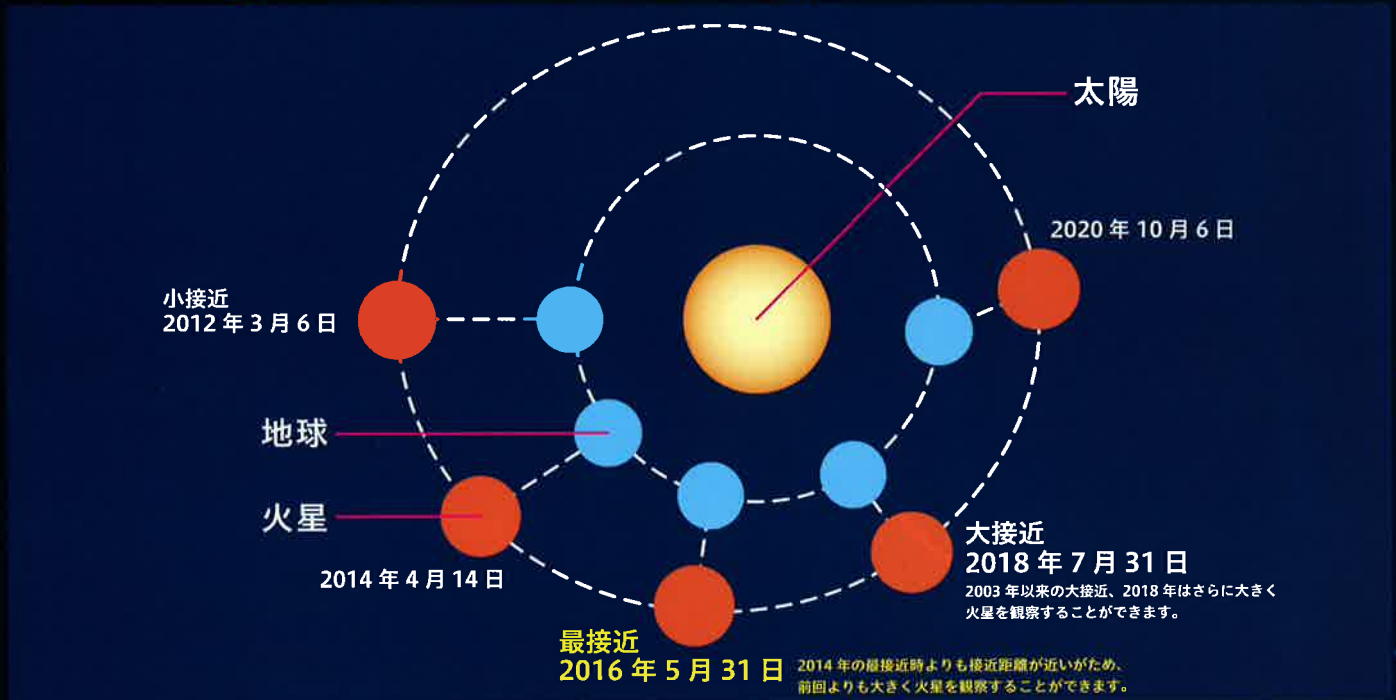


2016

天体望遠鏡・双眼鏡で楽しめる天体イベントを紹介

5/31 火星最接近

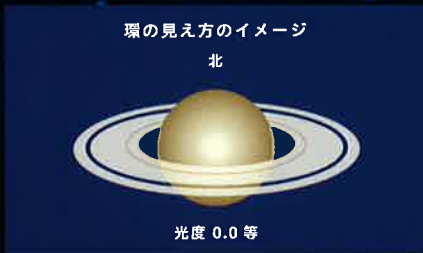
火星を観察する絶好の機会



火星は地球のすぐ外側の軌道を回る惑星で2年2ヶ月ごとに地球に接近します。今回は前回に比べて約1700万km近い場所まで接近することもあり、表面の模様を観察する絶好の機会です。また今回は蠍座のアンタレスの近くを移動するので、赤い色を競い合うさまも見逃せません。

6/3 環が大きく開き、観察に最適

土星が衝



土星の環の傾きはおよそ30年周期で変化していますが、2016年はかなり大きく開いている状態なので綺麗に環の様子を眺めることができます。近くに火星と蠍座のアンタレスがあり、環が開いた土星と一緒に観察することができます。

8/12-13 夏休み恒例の一番の見もの

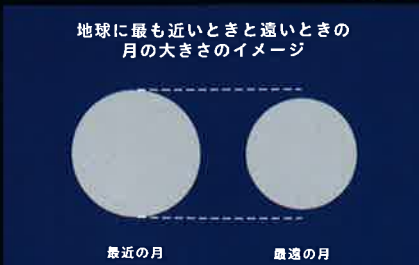
ペルセウス座流星群が極大



8月12日の21時ごろに極大を迎えます。このころは月が西の空に隠れています。真夜中に沈むので、それ以後の13日未明から夜明けまでが観察には良い条件となっています。ペルセウス座から見当をつけるより、カシオペア座のW文字から放射点を探す方が分かりやすいです。

11/14 月がより一層大きく見える

満月 (スーパームーン)



地球を回る月の軌道は楕円なので、月が軌道上のどの位置で満月になるかによって、満月の見え方の大きさが違います。地球に最も近い位置で見える満月、新月をスーパームーンと呼びます。最遠のときの満月より14%大きく、30%明るく見えます。

12/14 安定してたくさんの流星が出現

ふたご座流星群が極大



多ければ1時間に数十個ほどの流星が見られる可能性がありますが、2016年は極大日に満月が放射点の近くにあり、例年と比べると流星の数は少なくなりそうです。出現期間は12月5日ごろから12月20日ごろまでと長いので、月明かりを避けた観測をすることもできます。